

重層的支援体制整備事業 ご担当者の皆様へ （令和6年4月更新）

超解説（1730秒でわかる） 重層的支援体制整備事業の取り組み方 （愛知県 稲沢市社協の取り組み方編）

* この超解説は『令和5年度 社会福祉協議会活動 全国会議（令和5年11月）』及び『令和5年度 京都府 第2回 包括的な支援体制構築に向けた研修会（令和6年2月）』でご紹介（事例発表）させていただいた研修資料の一部改です。
（随時、更新しますので『右上の更新月』をご確認ください!）

『重層の推進』って『難しい』と思いませんか？

そもそも『重層』って何？

何から取り組めばいいの？



稲沢市社協マスコット 福ちゃん

重層が進まない理由

- ①これまでのように『国が方向性を示してくれない』から
- ②『創意工夫』という名の『丸投げ』だから
- ③事業が『漠然としすぎている』から

本当にそうだろうか・・・



実際に取り組んで、分かってきた！

重層が進まない理由は、別にある！

重層が進んでいる『市町の共通点』は・・・



私どもの事例発表は 『等身大の事例発表』 です

先進地視察等で『見聞きしたこと』、実際に取り組んで『苦労していること』

私たち自身の『苦悩』や『考え方』を余すことなくお伝えします！

『先進的ではない』 からこそ 『明日から使えるヒント』 があるはず

(反面教師であっても) 『皆さんのお役に立てる』のであれば、幸甚です！

お品書き

- 1 稲沢市（社協）の取り組み
- 2 包括的支援体制の要 『稲沢市e nモデル』
- 3 重層推進の考え方
- 4 具体的な取り組み方（How-to 重層）
- 5 重層に取り組む、全ての社協職員へ

稲沢市の概要

愛知県の北西部 濃尾平野の中央に位置

人口：133,592人（令和6年1月）

高齢化率：28.1%



・令和4年度から

『福祉の拠点』を中心に重層を展開！

(稲沢市役所東庁舎1階の総称)

愛知県内でも珍しい！

福祉課と社協が隣どうし！



1 稲沢市（社協）の取り組み

重層に取り組み始めて、まだ『**3年目**』

皆さんと同じ、発展途上、五里霧中、七転八倒

『等身大の事例発表』です！



1-1 稲沢市の特徴

・福祉課と社協（福祉総合相談窓口）が重層の推進役

福祉課 ⇒ 全体の調整役（財源確保、庁舎内連携、後方支援 等）

社 協 ⇒ 重層の全体構想を描く、周知啓発（研修会）、情報収集

複雑・複合課題ケースの支援調整（多機関協働のマネジメント）

社会資源（恩送り隊等）の開発、異業種連携の呼びかけ 等

・『生活困窮者支援をベース』に重層を展開

* 別添資料『超解説 重層リーフレット』の中面をご覧ください！

みんなで創る

『稲沢市の包括的な支援体制(重層的支援体制整備事業)』イメージ図 [実施主体:稲沢市]



第1の柱 誰一人取り残さない相談支援事業

(世代や属性を問わず包括的に相談を受け止める体制づくりとチーム支援の強化)

【関係部署】 学校 (スクールソーシャルワーカー) 病院 (医療ソーシャルワーカー) 社会福祉法人 消費生活センター 区長・民生委員さん 大家さん (市役所 関係各課) 等	【高齢】 地域包括支援センター 基幹型地域包括支援センター (高齢介護課)	【障がい】 基幹相談支援センター 相談支援事業所 (福祉課)
連携		
【生活困窮】 福祉総合相談窓口 (福祉課)	【子ども】 子育て支援センター 子育て世代包括支援センター (子育て支援課・保育課・健康推進課)	



第2の柱 参加支援事業

(社会との繋がりを回復するための支援策の充実)
福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター・企業・法人・団体 等

- ①見守り等居住支援の充実
- ②就労(準備)支援の充実
- ③多様な居場所づくり (人や地域との繋がりの場づくり)

【稲沢市enモデル】

専門外の相談や複雑・複合課題を抱えた個人(家族)の相談は、全て「福祉総合相談窓口」が集約し、適切な支援に繋がります。

◎3本柱の強化と一体的な運動が重要!!
◎私たち全員が当事者です!!

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 (早期発見型アウトリーチの強化)

福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター

地域や関係機関との連携強化によって、ひきこもりや8050世帯等、支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援につなぎます!

【福祉の拠点】福祉総合相談窓口(多機関協働事業)

支援の視点は、「家族の全体最適」と「チーム支援の強化(多職種連携)」

ステップ① ブラッシュアップ会議
(まずは、社協の専門職で複雑・複合課題の解さほぐし)

社協
(福祉総合相談窓口・基幹型地域包括支援センター・基幹相談支援センター・成年後見センター・生活支援コーディネーター)

ステップ② 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議(支援会議) *稲沢市も
(市役所の専門職を加え、多角的な視点から家族全体の支援方針や役割分担等を更に検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・健康推進課) 社協 必要に応じて関係機関も参加

ステップ③ 稲沢市重層的支援会議(生活困窮者自立支援調整会議)
(稲沢市として支援方針や役割分担等の最終決定、支援の評価、不足する社会資源を検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・保育課・健康推進課) 社協



第3の柱 地域づくりに向けた支援事業

(地域の縁づくりと異業種が交流できるプラットフォームづくりの強化)

- ①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備(多様な居場所づくり)
 【高 齢】 一般介護予防事業・生活支援体制整備事業(高齢介護課)
 【障 が い】 地域活動支援センター事業(福祉課)
 【生活困窮】 共助の基盤づくり事業(福祉課)
 【子 ど も】 地域子育て支援拠点事業(子育て支援課)
- ②社会資源(共通価値)を共創する場の整備(地域貢献活動の活性化)
 異業種が集う様々なプラットフォームの整備(福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター)
 社会資源の創造 = 地域の困りごと × 地域の方 × みんなの想い

(このリーフレットは、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます)

1-2 主要5事業の全てに社協が携わる

①誰一人取り残さない相談支援事業（包括的相談支援事業）

基幹包括（3名）、基幹相談（2名）、福祉総合相談窓口（8名）、成年後見（2名）

②参加支援事業

福祉総合相談窓口（居住支援・就労準備支援事業）、CSW = 生活支援コーディネーター（居場所づくり）

③地域づくりに向けた支援事業

CSW（5名）

④多機関協働事業

福祉総合相談窓口（相談支援包括化推進員 = 重層の推進役）

⑤アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

福祉総合相談窓口（従来のアウトリーチ）、CSW（早期発見型のアウトリーチ）👉地域に潜在するニーズをキャッチ！

1-3 福祉総合相談窓口

①生活困窮者自立支援事業

家計改善支援事業、就労準備支援事業、子どもの学習・生活支援事業

②多機関協働事業 （相談支援包括化推進員＝重層の推進役）

アウトリーチ事業、参加支援事業、ひきこもり支援事業、LINE相談事業

③居住支援事業 （居住支援法人格を取得） ☞社協では珍しい！

『参加支援事業』に『居住支援』を位置付けて取り組んでいます！

『住まい支援システム』×『稲沢市enモデル』の融合を模索中・・・

～居住支援×SDGs～

居住支援法人 稲沢市社会福祉協議会

住宅確保要配慮者居住支援法人 愛知第25号(令和4年3月16日 愛知県指定)

住宅確保要配慮者居住支援法人とは、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し賃貸住宅への入居に係る住宅情報の提供・相談、見守りなどの生活支援等を実施する法人として都道府県が指定するものです。

○支援対象(稲沢市在住)

生活困窮者、高齢者、障がい者など、住まいにお困りの方

○支援内容

① 住み慣れた住居で安定した生活を続けるための支援

「家賃滞納」「心身の状態に不安がある」「仕事がない」など

生活を維持することが困難な課題に対して、必要な制度や支援機関に繋がります。

例) 就労支援……………生活困窮者自立支援事業(福祉総合相談窓口)

介護保険制度……………地域包括支援センター、高齢介護課

障害福祉サービス…基幹相談支援センター、相談支援事業所 など

② 家探しが必要な世帯に対する入居支援

「家賃が高い」「立ち退き」「住み替え」など

市内の協力不動産店と協力し、新しいお住まいを一緒にお探しします。

大家さんに断られてしまう「課題」に対し、支援機関が包括的に支援をすることで、大家さんの不安が軽減されるようアプローチします。

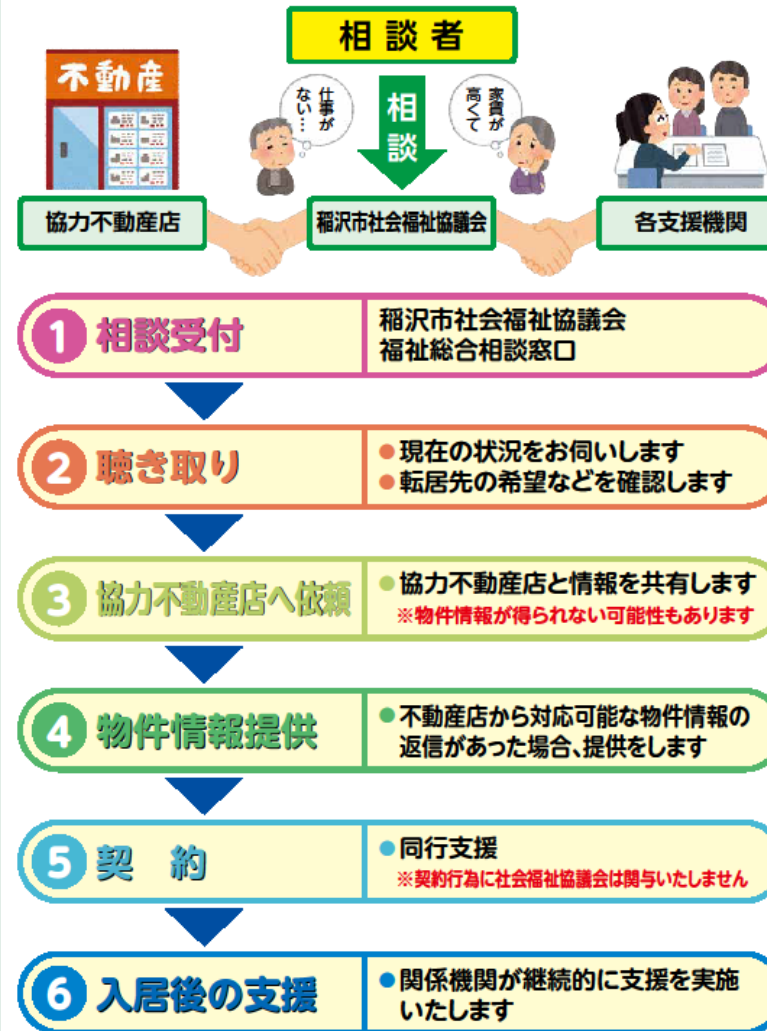
社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口(居住支援担当) ☎ 0587-32-1484

〒492-8269 稲沢市稲府町1番地 稲沢市役所東庁舎1階

開設時間：月～金 8時30分から17時15分まで(祝日・年末年始は除く)

支援の流れ(家探し)



(このリーフレットは、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます)

1-4 重層の中心で連携を叫ぶ社協

重層の推進とは『主要5事業の強化と一体的連動』

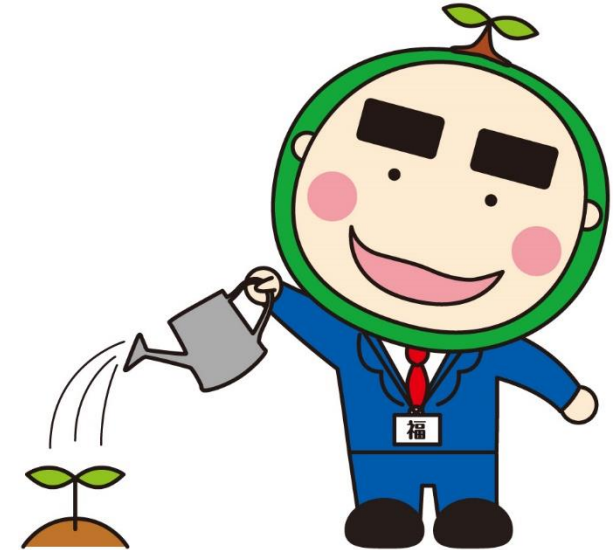
⇒ 社協がハブ（中心）となって重層を推進



主要5事業に携わる、高齢や障がい、地域福祉等
社協の各部門が起点となってネットワークを広げます！

2 包括的支援体制づくりの要 『稲沢市 e n モデル』

みんなの『縁』を育てています！



2-1 『稲沢市 e n モデル』とは

多職種連携のフロー図

複雑・複合課題の相談受付から支援開始までを『見える化』したものの

【特徴1】 『支援者を支援するための仕組み創り』  超意識しています！

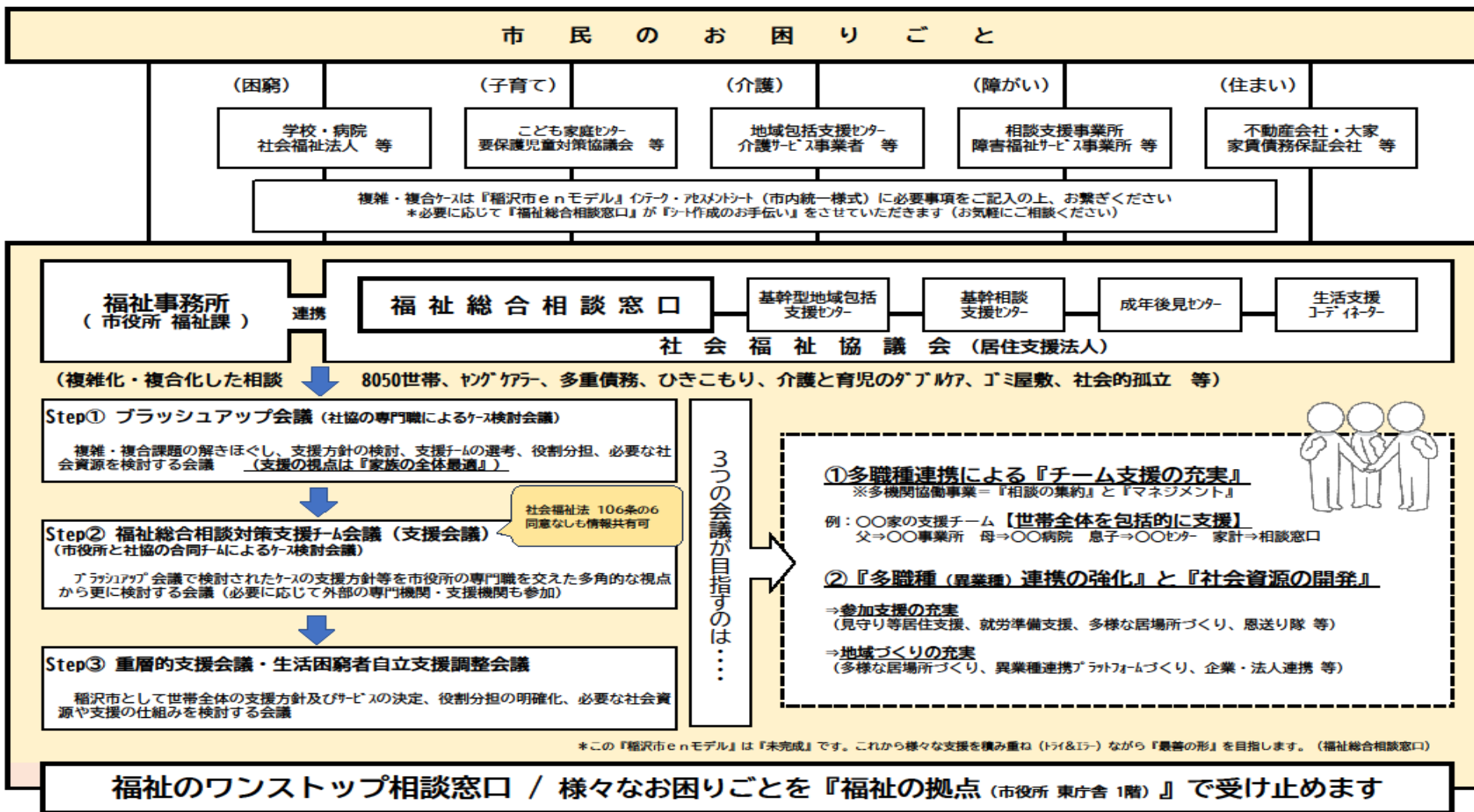
【特徴2】 『3段階のケース検討会議』で支援方針をブラッシュアップ！

【特徴3】 全分野統一のインタビュー様式で『家族全体の支援方針』を検討

* 稲沢市 e n モデルは『未完成』です（支援を重ねて最善の形を目指します）

令和6年度 重層的支援体制整備事業 『稲沢市enモデル（多機関協働による『包括的支援体制づくり』の全体像）』

【みんなで強化するポイント】⇒ ①支援者を支援する仕組み ②どこからでも専門機関に繋がる仕組み ③複雑・複合課題をチームで支援する仕組み



（この『稲沢市enモデル』は、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます）

2-2 3段階の会議で精度を上げます！

メンバーの視点は『家族の全体最適』と『チーム支援の強化』

step①ブラッシュアップ会議

社協の専門職によるケース検討会議（新人相談員のOJT・SV機能を兼ねる）

step②福祉総合相談対策支援チーム会議（『支援会議』）

市役所の専門職を含めたケース検討会議（ケースによって関係機関も参加）

step③重層的支援会議（生活困窮者自立支援調整会議）

現場レベルで検討した支援方針や役割分担等を決定する会議

ブラッシュアップ°会議（令和5年9月8日）の様子



この日は、岐阜県海津市（市役所・社協）の皆様が見学（視察）されました！

【感想】

『活発な意見が飛び交い、感動した！』

『私も参加したくなるような会議だった！』

対策支援チーム会議（令和6年1月17日）の様子



京都府の皆様が見学（視察）されました！

この日は、複雑・複合的な課題を抱えたケースの数が多く（10ケース）、児相や乳児院、相談支援事業所、社会福祉法人等の方々にも参加いただき『世帯の最善』に向けた『熱い議論』を交わしました！

3つの会議では『ケース検討』を通して

『多職種連携の課題共有』や『e nモデルの改善』

『稲沢市に不足する社会資源の開発』

も検討しています！

(令和5年度は『恩送り隊』を開発しました！次のスライド)



いつか元気になったら、今度は、あなたが、誰かを支えてあげてください

参加支援の開発『稲沢市恩送り隊』～『ハイワード』の仕組み創り～

地域で助け合い「恩送り活動」



稲沢市の若手経営者らが、生活困窮世帯の困り事を解決する仕組みづくりに挑戦している。その名は「恩送り活動」。市社会福祉協議会の協力を得て、支援が届かないことで悩む市民と、地域貢献をしたい人々をマッチング。「支援を受けた人が元気になったら、いつか別の人を助ける。そんな良い縁をつなきたい」と意気込む。(寺田結)

困っている人と助けたい人マッチング

六月末、市内のある二戸建て住宅にメンバー三人が集まった。庭の草木が生い茂り、周囲の家や駐車場、通学路に飛び出して、通行を妨げている。三人は住人と相談して、清掃を開始。持ち込んだ機械を使って一気に片付けた。

この発起人は、ひきこもりの男性一人。処理するべきとは分かっていたが、近所の目が気になって外に出られず、放置せざるを得なかった。しかし、自治体の制度では現状に対処できないのが現状だ。そこで手探したが、市内でエスエム遺品整理の事業を営む山下雄基さん(三)＝同市平和町。昨年秋、地域貢献ができないかと市社会福祉協議会に相談

庭生い茂った草木を片付ける「恩送り活動」のメンバー(稲沢市内)。

福祉新聞→

令和5年7月25日

←中日新聞

令和5年7月11日

(本会のホームページに掲載)



困窮者宅の庭の雑木を伐採する恩送り隊

稲沢市社協 恩送り隊が始動 次の困窮者につなぐ

東海・北陸

愛知県の稲沢市社会福祉協議会は、困窮者協会の恩送り隊の活動を支援の一環として6月に「恩送り(ハイワード)隊」の活動を始めた。ハイワードとは「自分が受けた善意をほかの誰かに返

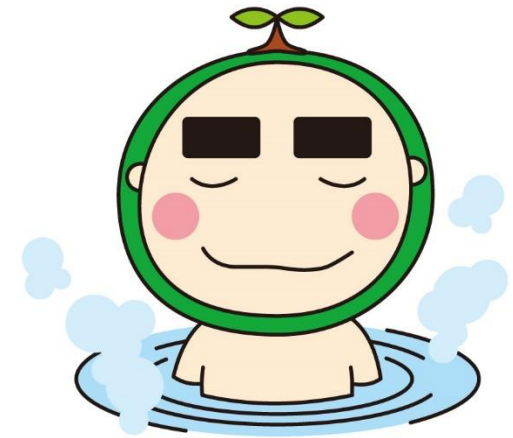
が市から受託している重層的支援体制整備事業の中の参加支援事業として取り組む。困窮者(企業や社会福祉法人など)を募集し、同社協の福祉総合相談窓口で支援が必要と判断された困窮者(引きこもりの人やヤングケアラーなど)に対し、庭の雑木の伐採、ゴミ屋敷の清掃、フードドライブ、居場所づくり、就労体験受け入れなど恩送り隊は、同社協

か元気になったらできる範囲で誰かを支え、輪を広げていく。モデルケースとして1人暮らしで精神障害と50代の男性宅、70代の父と30代の引きこもりの娘の自宅など、3軒の庭の雑木を伐採した。作業は商工会議所の有志が行った。同社協はまずはモデルケースを示し、市民にハイワードの意義や効果を広めていく。加藤泰章・同社協相談支援包括化推進員は「活動を見える化してボランティアが集まれば拠点を増やしていきたい」と意欲を語っている。(覆戸新)

3 重層推進の考え方

重層推進のキーワード

重層は『共感と共創』が9割



3-1 重層の推進とは？

- ・ 主要 5 事業の強化と一体的連動を図ること

・ 既存の仕組みをより良くし、それらを『連動』させていくこと

- ・ 多職種（異業種）連携を強化すること

多職種連携は『様々な関係者と苦楽を共にする支援の過程』で育まれます！

『○○連携会議』で本当に連携ができるなら苦労しない！（怒）

3-2 相談支援包括化推進員の役割は？

①重層の目的を関係者に伝え（周知啓発）

何のため？誰のため？しっかりと『腹落ち』させるまで、何度でも！

②関係者の『内発的動機（主体性）』を喚起し

当事者意識の醸成なくして、主体的な参加なし 『他人事 ⇒ 我が事』

③関係者を支援体制づくりに 『巻き込んでいく』 こと

重層は 『取り組む過程こそが重要』 ← 私たちは、ここを意識しています！

3-3 福祉課と社協の二人三脚で

- ・ 重層推進の要諦は『福祉課との一体化』

稲沢市は『福祉課と社協が一体』となって重層を推進しています！

- ・ 阿吽の呼吸、壺の型『雑談』

毎日のように福祉課の重層担当と『雑談（対話・意見交換）』しています！

- ・ 重層の充実は『担当者間との雑談時間』に比例する！？

結局は『人』、担当間の『コミュニケーションの総量』が重層充実の明暗を分ける！？

連携の特効薬 ⇒ 時代錯誤ですが『飲みケーション』は、今も効き目抜群！

4 具体的な取り組み方

(How-to 重層?)



重層推進は、たったの3手順でOK！



Step③仮説形成と仮説検証

Step②情報収集（TTPA）と内情把握

Step①内発的動機付けと基礎理解の徹底

Step① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

・まず、担当者自身の『内発的動機（主体性）』を高めよう！

重層推進担当には『自ら考え、行動し続ける力』が必要！

↑このスキルを持つ職員の有無が重層推進の明暗を分けます！

『私は、何のために取り組むのか？』自問自答を100回繰り返そう！

・重層の基礎理解を徹底する

『制度（背景含む）』 『先進事例』 『我がまちの状況』 の3つを理解する！

理解したとは『自分の言葉で中学生に説明できる』状態

基礎理解に最適！ ⇒ 『地域共生社会のポータルサイト（厚労省）』

Step② 情報収集（TTPA）と内情把握

- ・ 先進地を視察してTTPA 『A』（外側の把握）

重層推進のセオリーは、ゼロからイチを生み出すのではなく

先進地の取り組みを徹底的にパクって、我がまちに『アルジ』する こと！

【注意】 パクるだけでは機能しません！なぜか？地域特性や社会資源が違うから！

【重要】 先進地視察は『担当者との繋がりが大きな財産』になります！（人脈こそ財産）

- ・ 我がまち（地域特性や社会資源、影のキーマン）の把握（内側の把握）


我がまちを知らずして『我がまちの支援体制』は、デザインできません！

Step③ 仮説形成と仮説検証

- ・ **仮説形成（ビジョンの妄想）** ～『**創意工夫**』に込められた想いとは～

厚労省の想い、社会資源、地域特性、先進事例等を総合的に勘案し、

『**我がまちに適した「仮の」支援体制をデザイン**』**します！**  ここが醍醐味


【注意】仮説形成がないと、無駄に迷走します！（ノーモア一時間泥棒 )

- ・ **みんなで仮説検証（試行錯誤と活動評価）**

みんなを巻き込んで試行錯誤する『**過程**』こそが『**重層推進**』そのもの！

重層推進担当の役割は

①ビジョンを描き  『ワクワク（高揚）』した状態で！

②人を巻き込み  重層の充実は『過程』が 10割！

③付加価値を生み出していく こと

2年間で見えてきた課題

課題① 『人財確保（人財育成）』

重層推進は『人財』が全て（全体の底上げと脱属人化が必要）

課題② 『他人事から我が事へ（周知啓発×100回）』

なぜ、重層ができたのか？誰のため？何のため？知ってる？

課題③ 『活動評価（費用対効果の見える化）』

数字は実績の一部に過ぎない！（数字の大小では評価できない）

連携や地域づくり等『見えないもの』をどう見せるか？

私たち重層担当にとっての最大の課題は

『如何にして、人を巻き込んでいくか・・・』

稲沢市全体の底上げ（スキルアップ）を図りたい！

これから『仕掛けたい』と思っていること

『稲沢市 e n モデル』 × 『S E C I（セキ）モデル』

* 『S E C I モデル』は『ナレッジマネジメント』の基礎理論の一つです

組織の枠を超えた『人財育成の仕組み』づくり

経験豊かな職員や相談員等が蓄積した『知識』や『経験値（暗黙知）』を
稲沢市全体の支援機関（支援者）で『共有できる仕組み（場）』を創りたい！

SECIモデル を回す（スパイラルアップさせる）ことによって、

- ① 組織の枠を超え、支援者全体のベースアップを図りたい！（脱属人化）
- ② （オープン）イノベーションを加速させたい！（異業種連携の真の目的）

5 重層に取り組む、全ての社協職員へ

社協にとって重層は
新しい取り組みじゃないよ！



5-1 重層は社協そのもの！

- ・ 重層ほど『社協の存在意義』を示せる取り組みはない！

重層は、これまで積み上げてきた『社協事業の延長線上』にある！
相談支援、ネットワークづくり、地域づくり、アウトリーチ、権利擁護・・・

全部『社協の得意分野じゃないか！』

5-2 社協らしさとは？

- ・ 社協職員なら『失敗を恐れるな！』

本当の失敗は『何もしない』こと！

- ・ 現状の壁をぶっ壊して突き進め！

『行政の役割が明記』された今、『現状維持』では、もう生き残れない！

* 社会福祉法第6条（包括的な支援体制づくりにおける、社協の立ち位置は？）

ゆでガエル社協に明日はない！（危機的な社協の現状に早く気づいて！）

熟慮断行『80%正しい』と思うなら突き進め！（いつまで前年踏襲を続けるの？）

5-3 断じて行えば、鬼神もこれを避く！

- ・ 最後は『断固たる決意』と『楽観力』

私たちは、百折不撓の精神で 『必ず』やり遂げる！

重層担当3年目、色々あるけど、今が一番楽しい！



- ・ 『怒り』を『原動力』に変えて突き進め！

やってきて分かった！ 私たちの原動力は『激しい怒り』だった！

まとめ① 『重層推進の公式集』

- ・ 稲沢市全体の底上げ（スキルアップ）の公式

= 『稲沢市 e n モデル』 × 『SECIモデル』

- ・ 住まい支援充実の公式

= 『稲沢市 e n モデル』 × 『住まい支援システム』

- ・ 関係者巻き込みの公式

= 『稲沢市 e n モデル』 × 『行動経済学（ナッジ）』

まとめ② 『重層推進の要諦』

- ・ 重層担当に必要なのは『**内発的動機（主体性）**』と『**激しい怒り？**』
- ・ 重層は『**共感と共創が9割**』 みんなで取り組むもの！（過程こそが重要）
- ・ 重層の推進は、『**TTPA**』（徹底的にパクって、アレンジ！）
- ・ 重層の推進は、『**社協の発展（地域づくりの推進）**』 そのもの！

【最後に一番伝えたいこと】

重層も仕事も 『**楽しんだもん勝ち！**』

ここまで読んでいただいて、ありがとうございます！
不明な点等がありましたら、お気軽にお問い合わせください！
この『ご縁』をきっかけに交流を深めましょう！

社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口 相談支援包括化推進員 加藤・北上

住 所 愛知県稲沢市稲府町1（市役所 東庁舎内）

電 話 0587-23-6713



まっつてまーす♪